

十三年暮より檢地高之通收納仕候事。

一、土方河内守殿新川郡知行、能州御替被成候儀、慶長十三年之由。新川に而本高壹萬石之事。

一、尾添・荒谷上り地に罷成候儀は、寛文八年秋中より催有之、同十月御上被成、同年海津中村町御替地御請取被成候事。

一一 高俵免及び斗升之事

一、天正之頃高俵詰免は、十免与して、假令ば七つに納所仕所は、三つ免引と有之。但、口米は無之、金子を何枚何兩と何匁何分と上候躰之事。

一、文祿茂右同事。慶長二三年之頃より物成、百俵に付貳拾六俵物成之事。

一、慶長十一年之頃より物成、何つ何歩斗升と有之、口米石に五升宛。但、慶長九年迄は口米之書物見え不申候事。

一、慶長十年より以前は京升と相見申候。但、五斗貳升俵。

一、寛文八年七月より新京升に改申に付、御國に而升被仰付出來仕、御家中并御郡中に茂用申所に、同九年より江戸。

京に而仕候新京升用可申旨重而相極、御國升は何茂捨り、京・大坂より之升用申候。升之寸法は同事に候。夫故御收納・給人知共、最前斗升与之升違程口米増、石に壹斗壹升貳合宛之口米に此年より相極候事。

一二 慶長中宿送人馬折紙之事

一、慶長之頃御分國中公儀御用宿送り之人馬・傳馬、本多安房・横山々城折紙、利光様御朱印に而宿々々被遣置、見合候而公用相勤候由。勿論人夫・傳馬賃不被下候事。

一三 越中五ヶ山納所之事

一、慶長十年五ヶ山金納所三拾枚・塩硝千五百斤与有之、同十二年に四拾枚・塩硝貳千斤と有之候事。

一四 織田信長檢地之事

一、公儀檢地木村長門御奉行に而、上方より加州・能州迄繩入申候得共、天正十年信長公御逝去に付而、越中に越不申、仕廻申由に候。繩入申分は三百歩壹反、繩入不申分は

三百六十歩壹反之事。

一五 斗代之事

一、御領國中斗代之事

三千六百歩一町

越中一國

草高拾五石

三千歩一町

能州一國・石川郡・加賀郡

草高拾七石

三千歩一町

能美郡・江沼郡共

草高拾七石

一、加州貳萬歩に米百石有之事。

一、越前國斗代之事。

三千歩一町

上拾八石

中拾五石

下拾貳石

右者百姓内輪に而取遣申候大圖如此。惣而國中郡々斗代一統に極無之、段々高下有之由。檢地与申儀に而、川除等不足高有之候得ば、免に而用捨有之由。

立毛毎年見圖之事。

口米壹石に三升充。

夫銀草高百石に米に而五石宛之事。

一、越後國斗代之事。

三千歩一町

上拾五石

中拾三石

下拾壹石

錢百貫を直し知行貳百五拾石に當。但、米壹升に付錢四文充。

一六 領國內町夫之事

町夫御定之事 明暦元年春極る

一、四千人

小松町

一、五百人

松任町

内、貳百人明暦貳年之増。

一、壹萬貳千人

金澤町

一、三千人

宮腰町

一、七百人

石動町